

よろこびはだれに～思考の流れ・変容が見える化～

- 1 **主題名** 仲間を守るきまり **内容項目** C 規則の尊重  
 2 **ねらい** 約束やルールの意味やよさについて理解し、よりよく守ろうとする判断力を育てる。  
**教材名** よろこびはだれに（出典「彩の国の道徳『未来に生きる』埼玉県教育委員会」）

3 **主題設定の理由**

(1) ねらいや指導内容について

中学年における内容項目「規則の尊重」では、「約束や社会のきまりの意味を理解し、それらを守ること。」とある。これは低学年の「約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。」を発展させたものであり、高学年の「法やきまりの意味を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。」へ発展していくものである。社会の法やきまりのもつ意義について考えることを通して、法やきまりが、個人や集団が安全にかつ安心して生活できるようにするためにあることを理解し、それを進んで守り、自他の権利を尊重するとともに義務を果たすという精神をしっかりと身に付けるように指導する必要がある。

中学年の段階においては、気の合う仲間や集団の中にきまりをつくり、自分たちの仲間や集団及び自分たちで決めたことを大切にしようとする傾向がある。また、一人一人が身近な生活の中で、約束や社会のきまりと公共物や公共の場所との関わりで考えることは少ない。

指導に当たっては、このような時期だからこそ、集団生活をする上で、一人一人が相手や周りの人の立場に立ち、よりよい人間関係を築くことや、集団の向上のために守らなければならない約束やきまりについて十分考えることが必要である。また、自分の思いのままに行動するのではなく、約束やきまりを守って行動する判断力を育てることが大切である。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、道徳科において新聞づくりのルールについて話し合うことを通して、きまりを守ることの大切さについて考えを深めた。また、学級活動においてクラスレクを週2回企画し、実践する中で、少しずつではあるがきまりの意味やよさについて感じられるようになった。

そこで、本教材では、身近なインターネットとの関わりから、きまりの大切さを感じさせるとともに、一般的な約束や社会のきまりの意味やよさについて理解し、それらを守るような判断力を育てたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、なわとび大会に向けてクラスで練習し、新記録を更新した動画をインターネットに載せるか悩み、思いとどまるが、次の日に、友だちの写真を無断でインターネットにのせて問題になった話を先生から聞き、自分の考えていたことについて振り返る話である。

本学級の実態を受け、主に次の場面を話し合うことにする。

①新記録を達成したわたしが涙を流して喜んでいる場面

ここでは、努力の末の新記録に歓喜し、その喜びや感謝の気持ちをインターネットでも共有したい気持ちを共感的に考えられるようにする。

②わたしがタブレットの動画を何度も見返している場面

ここでは、インターネットに載せたい気持ちと、載せてはいけない気持ちの葛藤を感じ取らせ、話し合い、考えられるようにする。

③次の日、先生の話聞きながら考えている場面

ここでは、ルールを守るとは、みんなが気持ちよく生活していくために必要だと気付いていくわたしの考えに触れ、規則の意義やよさについて考えられるようにする。

#### 4 学習指導過程

階	学習活動と主な発問	予想される児童の発言	・指導上の留意点☆評価の視点
導入	1 アンケート結果を見て、身近な約束やルールについて考える。 ・私たちの学校や家庭、地域にはどんなルールがあるのでしょうか。	・廊下は右側を歩く。 ・信号機の赤は止まる。 ・名前は「さん」付けて呼ぶ。 ・ルールを守れないこともあるよな。	・指導上の留意点☆評価の視点 ・身の回りの約束やルールに係るアンケート結果を電子黒板に映し、教材と生活を結びつけられるようにすることで、児童の問題意識を高める。

Q. 身の回り  
きまりやルールには、  
どのようなもの  
がありますか？

座席・導入の工夫



アンケート結果をプレゼンテーションソフトでまとめ、視覚的にわかりやすくかつ、スムーズに導入できるようにした。

児童が安心して発言ができるように、お互いに顔が見えるよう、机の並びをUの字とする工夫をした。

展	2 教材の登場人物や条件 ・状況について知る。		・状況を簡潔に説明することで、教材の内容を理解しやすくする。
	<p>〈登場人物〉 わたし かいとさん 友だち お兄ちゃん お母さん 先生 ・なわとび大会に参加 ・動画を参考に練習</p>		

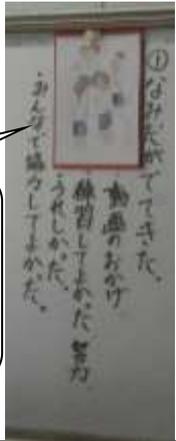
場面提示の工夫



テレビ画面に要点を加え、提示することで、視覚的に条件  
・状況を捉えやすくした。

黒板に掲示するものは、後で振り返るために、キーワードを付け加えた。



開	<p>3 教材「よろこびはだれに」の読み聞かせを聞き、話し合う。</p>		
	<p><b>読み聞かせの工夫</b></p> <p>児童の間を歩きながら読み聞かせをすることで、児童の反応や教材の内容を理解しているかどうかを確認した。</p>		
<p>(1) 涙を流しながらわたしはどんなことを考えたのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うれしい</li> <li>・動画のおかげで新記録が出た。</li> <li>・この動画をほかの人にも見せたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・努力の末の新記録に歓喜したわたしに共感することで、喜びや感謝をインターネットでも共有したくなる気持ちを考えられるようにする。</li> </ul>	
	<p><b>人間理解を深める話合い</b></p> <p>T : 涙を流しながらわたしはどんなことを考えたのでしょうか。</p> <p>C : 新記録ができてうれしい。</p> <p>T : <u>そうですね。すごくうれしかったのですね。どうして新記録がだせたのですか。</u></p> <p>C : みんなで練習してきたから。努力の成果。</p> <p>C : 新記録が出たのは動画のおかげもある。</p> <p>C : 自分たちの動画も見てもらいたい。</p>	<p>児童の発言を受容し、嬉しさを共有したい気持ちを深めた。</p>	
	<p>(2) タブレットの画面を見ながら「わたし」はどんなことを考えているのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画をインターネットにのせるかのせないか。</li> <li>&lt;載せたい&gt;</li> <li>・記録をのばせたのは動画のおかげだから、この動画もほかの人の役に立つかも。</li> <li>・私たちの努力の成果をほかの人にも知ってほしい。</li> <li>&lt;載せないほうがいい&gt;</li> <li>・知らない人に見られるのは恥ずかしい。怖い。</li> <li>・一度インターネットにのせてしまうと消せない。</li> <li>・家の人や先生が「だめ」と言っていたから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画サイトを開き、タブレットに書き込みながらも、ためらう「わたし」の葛藤を考えられるようにする。</li> <li>・インターネットに載せたい気持ちと載せてはいけないという相反する感情を表現できるように、心情の見える化や板書の工夫をする。</li> <li>・インターネットが悪いものにならないように、インターネットの利便性を確認する。</li> <li>・&lt;載せたい&gt;気持ち・&lt;載せないほうがいい&gt;気持ちのそれぞれに対して、問い返しをするこ</li> </ul>

・勝手に載せてはいけない。

### 個人の考えを可視化するツールを複数活用し、心情の変化が見える話し合い



心情の変化が視覚的にわかるように、一人に二つのハートメーターを渡し、話し合いを通して心情の変化が見える工夫をした。(変化しなくてもよいことを共通理解している。)

とで、考えを深められるようにする。

☆新記録の喜びをインターネットに載せたい気持ちと、載せないほうがいい気持ちを友だちの考えをしっかりと聞き、物事を多面的・多角的に考えている。(発言・うなずき・表情・ハートメーター)

「規律ある態度」の育成

#### 【話を聞き、発表する】

小集団の話し合いのとき、相手に体を向け友達の考えを比較しながら聞けるようにする。

### 個人の考えを可視化するツールを活用し、小集団→全体へと広げる話し合い

T：タブレットの画面を見ながら「わたし」はどんなことを考えているのでしょうか。  
C：この動画をインターネットにのせて、いろいろな人に見てもらいたいな。  
C：「恥ずかしいからいやだ。」と言っていた友達もいたな。  
T：自分たちの動画をインターネットにのせたい気持ちと、のせない方がいい気持ちと、どうやら迷いがありそうですね。「載せたい」をピンク、「載せないほうがいい」を水色として、どちらの気持ちが強いか、ハートメーターに表してみましよう。



考えを可視化することで、自分の考えが整理され、表現しやすくなった。

#### 【小集団（3人組）での話し合い】

T：それでは、グループでわたしの思いについて話し合ってみま  
C：私たちの努力の成果をほかの人にも知ってほしい。  
C：世界中の人に見てもらって有名になりたい。  
C：のせるのが嫌と言っていた友達もいたよ。  
C：怒られるだけではなく、事件に巻き込まれてしまうかも  
C：…権利があるって話を聞いたことがあるけど。  
T：友達の考えを聞いて、考えが少しでも変わった人はハートメーターに表しましよう。  
変わっても変わらなくてもその理由を大切にしてください。



ハートメーターを活用しながらグループで意見交換を行い、考えを深めた。また、友達の考えを聞いて、考えに変化があった場合は二つ目のハートメーターに表す工夫を行い、考えの変化を可視化し、その理由についてさらに話し合った。

【全体での話し合い】

T：「載せたい」気持ちが少しだけ多いようだけど、どんな考えかな。  
 C：勝手に動画をのせてはいけないというきまりはあるけれど、今回の自分たちの記録を他の人に見てもらって認めてもらいたい気持ち。  
 T：「載せたい」気持ちが多くの人の考えを聞いて、他の人はどう考えましたか。  
 C：「すごいね。」って認めてもらいたい気持ちと自分たちが他の人の動画を参考にしたように、この動画も誰かの役に立ててほしい。  
 T：（ハートメーターの変化から）「載せたい」気持ちが初めは多かったけど、「載せないほうがいい」気持ちが多くなったのはどうして。  
 C：〇〇さんの「友達ののせたくない気持ちも大切にしたい」という意見を聞いて、「のせない方がいい」気持ちが強くなりました。



(3) 先生の話聞いてドキドキしている「わたし」はどんなことを考えたでしょうか。

- ・やっぱりいけないことだった。
- ・やらなくてよかった。
- ・クラスみんなに迷惑をかけるところだった。
- ・自分の思いのままではなく、相手の思いも考えなくては。

価値理解を深める話し合い

T：先生の話聞いてドキドキしている「わたし」はどんなことを考えたでしょうか。  
 C：動画を載せなくて良かった。  
 C：わたしは、自分のことばかり考えていた。  
 T：自分のことばかりってどういうこと。  
 C：自分の「動画を他の人にも見てほしい」という気持ちを優先させていて、「他の人には見られたくない」と言っていた友達の気持ちを考えていなかった。  
 C：…迷惑をかけるところだった。  
 T：「わたし」はどんなことに気付いたかな。  
 C：インターネットに無断で動画を載せてはいけないのは、自分や周りの人を守るためのきまりだった。  
 C：迷惑をかけないためにきまりがあるのかもしれない。自分や他の人を守るためにしっかりと守らなければいけないと思う。

自分本位であったことに気付かせるために「問い返し」をした。

道徳的価値に迫るために「問い返し」をした。

<p>4 自己を見つめ、生き方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・約束やルールはなぜ必要なのか、これまでの生活を振り返り、今日の授業で考えたことを書きましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までは、怒られるから守ろうと思っていたけれど、きまりは自分だけではなく、周りの人を守るためにあるんだ。</li> <li>・今までは、ただ楽しめればいいと思っていたけれど、インターネットを使うときはきまりや約束を守って使いたい。</li> <li>・今までは、つい廊下を走ってしまうことがあったけど、自分や相手のために右側を歩きたい。</li> <li>・今までは、自分勝手にルールを守れないことがあったけど、ルールは、自分やほかの人が気持ちよく生活するためにあることが分かったので、これからはしっかりと守っていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の経験を振り返り、今後の生き方について自分らしく表現できるようにする。</li> </ul> <p>☆インターネットの約束やきまりの意義を理解したうえで、きまりを守ることについて、自分との関わりで考えている。</p> 
--	--	---

**「自己を見つめる」書く活動**

今日の授業のふりかえり

・約束やルールはなぜつようなのが、これまでの生活を振り返り、今日の授業で考えたことを書きましょう。

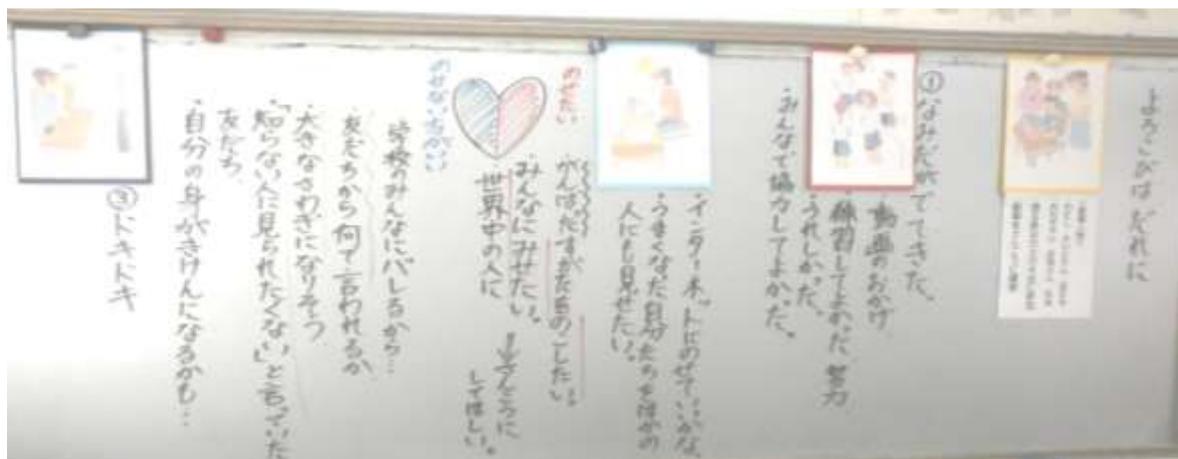
いままで「守らなければいけなかったけれど、このルールをとおしてやったらいけないことをやたらにやっちゃうかもしれないと思って、これはいけないことをまもりたいです。

----- は自己を見つめる部分

————— は自己の生き方について考えを深める部分

<p>終末</p>	<p>5 生活の様子を画像で見ると。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>児童が廊下の右側を歩く姿など、きまりを守って生活している様子の画像を流す工夫をした。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が主体的に約束やルールを守り、生活していこうと思えるように余韻を残す。</li> <li>・スライドショーに合わせて、よりよい判断ができている様子を称賛する。</li> </ul>
-----------	--	--

## 5 板書



## 6 他の教育活動との関連

- ・学級活動で学校等の約束について考え、よりよく過ごすことができるようにする。
- ・社会科では、きまりや公共施設について理解を深めることができるようにする。
- ・全教育活動を通じてタブレットやスマートフォン、オンラインゲームなどの怖さを学び、正しい知識を身に付けられるようにする。

## 7 評価の視点

### 【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・主人公に自分を投影しながら、新記録の喜びをインターネットに載せたい気持ちと載せないほうがいい気持ちを多面的・多角的に考え、自分の考えを伝え、話し合っている。

### 【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・自分や他人の中にある心の弱さや葛藤があることに気づき、自分だけではなく周りの人のことを考えて、ルールを守る大切さについて考えている。